

Trimble Access

バージョン 2024.00 リリースノート

このリリースのTrimble® Access™ソフトウェアには、次の変更点が含まれています:

主な機能:

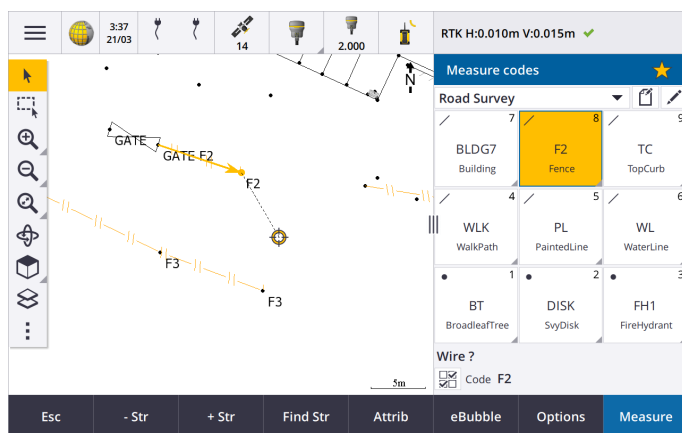
地形学的・地形特徴点測量

現在の地形特徴点を現在位置までの破線で強調表示する

コード測定、地形測定またはポイント測定画面で作業を行うときは:

- 現在の特徴コード付きラインがマップで強調表示されます。
- 最後に測定したポイントから現在の位置まで、破線が引かれます。

その結果、次に追加されるポイントの位置がわかりやすくなり、線画をSTRING化している場合は、正しいSTRINGが選択されていることを確認しやすくなりました。



ラインおよびポリゴン特徴は一度だけプロンプトを表示

Trimble Accessに、ラインまたはポリゴン特徴の最初のポイントを測定した後、属性の入力をプロンプトするオプションが追加されました。以前は、特徴の各ポイントの後に属性を入力するようプロンプトが表示されていました。

「地形の測定」および「ポイントの測定」でSTRING化ソフトキーを使用可能

STRINGを使用する同じ特徴コードを使用する複数のライン特徴を測定する際、STRING番号を増やしたり減らしたりするソフトキーの名称を+とから+ Strと - Strへと変更し、FindをFind Strへと変更しました。オプションで設定されたSTRINGの接尾辞がすべての特徴コードに適用されるようになりました。以前は、個々のコードグループのコードの測定で異なる接尾辞を構成できていました。

+ Str、- StrおよびFind Strソフトキーは、地形の測定およびポイントの測定画面で使用できるようになりました。以前は、STRING化ソフトキーはコードの測定画面でのみ使用可能でした。地形の測定およびポイン

トの測定画面でのstring化は、ジョブで使用されている特徴ライブラリXMLファイルで定義されているコードを使用する場合のみ動作します。

サイズの大きいデータセットで作業を行うためのマップツール

リンクされたマップファイルのプロパティの表示と管理


杭打ち中など、リンクされたマップファイル内のアイテムのプロパティまたは属性を確認すると、ソフトウェアは、プロパティを展開可能および折りたたみ可能なグループで表示するようになりました。すべてのグループをすばやく展開または折りたたむには、**Ctrl + Space**を押すか、**Ctrl**を押しながら展開アイコンまたは折りたたみアイコンのいずれかをタップします。

お気に入りのプロパティを選択するには、一つ以上のプロパティの横にある☆をタップしてから**更新**をタップして、選択したプロパティとそのグループ名をプロパティリストの上部にある**お気に入りのプロパティグループ**にコピーします。お気に入りのプロパティは、コントローラごとに選択する必要があります。お気に入りプロパティを追加すると、そのプロパティがリンクされたマップファイル内の選択した項目に使用されている場合、そのプロパティは常に**お気に入りのプロパティグループ**に表示されます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ内のマップ内での項目プロパティの確認](#)のトピックを参照してください。

BIMモデルのカスタムプロパティセットの表示と更新


Trimble ConnectでBIMモデルに追加されたカスタムプロパティセットのプロパティを、Trimble Accessで表示および編集できるようになりました。

カスタムプロパティセットを表示するには、BIMツールバーの**プロパティセット**  ボタンをタップして、Trimble Connectからマップに表示されているBIMモデルに適用されているカスタムプロパティセットをダウンロードします。マップで、BIMモデル内の項目を選択し、**レビュー**をタップします。カスタムプロパティセット内のプロパティは、BIMモデルファイルに含まれるプロパティとともに表示されます。



カスタムプロパティセットは、現場で何かに変更されたことをオフィスに通知する、プロパティをモデルに追加する便利な方法です。Trimble Connect Business Premiumライセンスをお持ちの場合は、BIMモデルの作成に使用した元のオーサリングツールにアクセスすることなく、カスタムプロパティセットを作成し、Trimble Connectの任意のモデル要素に割り当てることができます。Trimble Accessでカスタムプロパティセットを表示および編集するのに、Trimble Connect Business Premiumライセンスは必要ありません。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ内のカスタムプロパティセットのレビュー](#)を参照してください。

BIM モデル選択モードツール

BIMモデルの正しい部分の選択が簡単でないことを私たちは理解しています。BIM ツールバーに**選択モード** ボタン  が追加され、マップ内のBIMモデルの選択可能な項目の種類を選択できるようになりました。

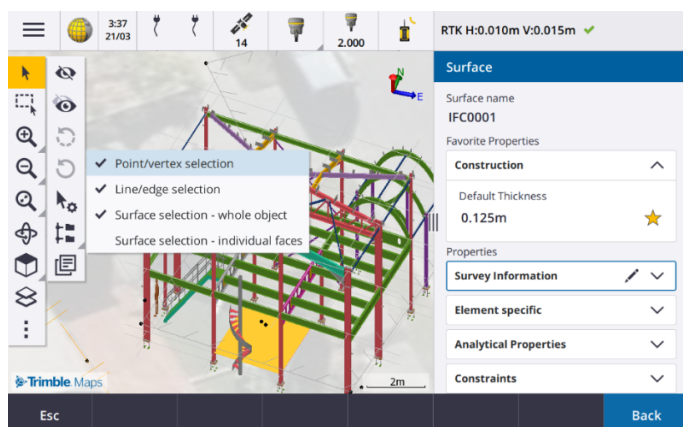
使用可能な選択モードには、これまでマップ設定画面で使用できた**面選択 - オブジェクト全体** オプションと**面選択 - 個々の面** オプションと、二つの新しい選択モード(**ポイント/頂点選択**と**ライン/エッジ選択**)が含まれます。

今すぐ選択できないようにする項目の種類を無効にします(たとえば、頂点が配置されているラインではなく、頂点を選択する場合は、ラインの選択を無効にします)。項目の種類が無効になっていると、 ボタンは  に変化します。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ内のBIMモデル選択モード](#)のトピックを参照してください。

BIM 面のレビュー

複数のBIM面をレビューする場合、レビュー中のBIM面がマップ内で黄色で強調表示され、選択した他の面はシアンで強調表示されたままになります。次または前ソフトキーをタップして、選択面を切り替えます。



接続されたクラウドワークフローのためのツール

ジョブにタグを割り当てる

クラウドプロジェクトで作業しているときに、ジョブにタグを割り当てて、整理された状態を維持できるようになりました。Trimble Connectでプロジェクトごとに、プロジェクトフェーズや現場のタグを設定して、ジョブを整理することができます。Trimble Accessユーザは、ジョブ画面でタグを割り当てたり、削除したりすることができます。Trimble Connectでタグ名で検索すると、簡単にジョブを見つけることができます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプのジョブの管理](#)のトピックを参照してください。

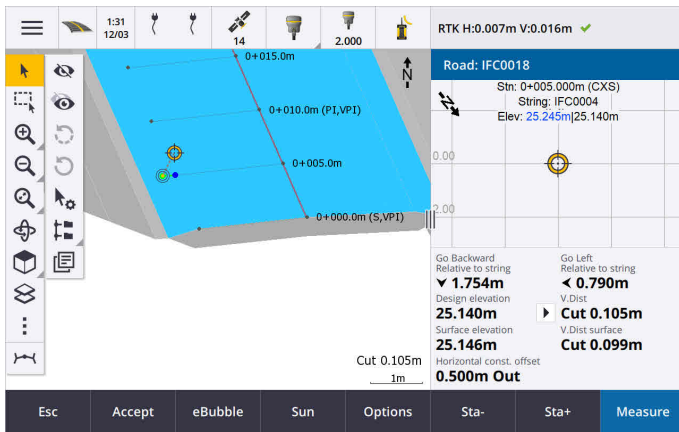
その他の新機能と機能強化

BIM面への杭打ち

地形面の使用に加えて、切土/盛土をIFCモデルの面から計算できるようになりました。杭打ち画面で、面への切土/盛土スイッチを有効にします。面フィールドで、現在のプロジェクトフォルダから面ファイルを選択する代わりに、BIMファイルから面を選択します。面フィールドには、マップで選択した面の数が表示されます。

ポイントの杭打ち時にBIM面への切土/盛土を計算するには、マップでBIMファイル内の面を選択し、オプションをタップして面への切土/盛土スイッチを有効にし、選択した面の数を確認してから承認をタップします。

追加の面デルタが使用可能になりました。杭打ち中に表示されるデルタを設定するには、オプションをタップしてデルタを編集します。



面への杭打ちの機能強化

ライン、円弧、またはポリラインを杭打ちする場合、面から切土/盛土を計算するオプションは、**杭打ち画面から直接アクセス**の方が簡単です。杭打ち画面で、**面への切土/盛土**スイッチを有効にして、面を選択します。以前のバージョンでは、面選択は**オプション**からアクセスし、DTMと呼ばれていました。

IFC 4.3 ADD2対応

Trimble Accessバージョン2024.00は、IFC 4.3 ADD2ファイルを読み取ることができます。ADD2は公式で最終のbuildingSMART ISO IFC 4.3規格です。

IFC 4.3は、**道路、線路および橋**を含む**直線的なインフラ資産**をサポートしています。IFC 4.3ADD2は比較的新しいスキーマであり、現在IFC 4.3 ADD2ファイルを作成できる製品はほとんどありません。buildingSMART Internationalの戦略的メンバーとして、Trimbleはこのオープンでベンダー中立の国際標準をサポートするために業界パートナーと協力することをお約束します。**IFC検証サービス**に合格したIFCファイルを手にしたが、Trimble Accessで期待どおりに機能しない場合は、Trimble販売代理店経由で弊社にファイルを渡してください。

IFC 線形の属性

IFCファイルからポイントやラインを杭打ちするときにTrimble Accessが属性を保存するのと同様に、IFCファイル内の線形の属性は、線形の杭打ち時に保存されたポイントとともに保存されるようになりました。



作成時にローカルプロジェクトをクラウドにアップロードする

コントローラでプロジェクトを作成するときに、**新規プロジェクト画面のクラウドプロジェクトの作成**チェックボックスをオンにして、プロジェクトの作成時にクラウドにアップロードできるようになりました。

新しいプロジェクト設定画面

新しいプロジェクト設定画面は、**プロジェクトプロパティ画面**と**同期設定画面**を組み合わせた画面です。

- プロジェクト設定画面を開くには、プロジェクト画面でプロジェクトを選択し、プロジェクト詳細ペインで  をタップします。

 アイコンは、プロジェクト画面のプロパティソフトキーと、プロジェクトペインの  アイコンの代わりとなるものです。

- プロジェクト設定画面に**プロパティ**タブが表示されます。プロジェクトがクラウドプロジェクトの場合は、以前は**同期設定画面**で使用可能であった**ファイルの接続**タブ、**チーム**タブ、および**IBSS**タブも表示されます。
- プロジェクト画面に、コントローラからプロジェクトを削除するための**削除**ソフトキーが追加されました。

クラウド設定の変更


- スケジューラの同期画面の名前がクラウド設定画面に変更され、スケジュールに加えて設定が含まれることがより適切に示されるようになりました。
- 「リンクされたプロジェクトファイルとフィールドデータをアップロードしてエクスポートする」チェックボックスの名前が、「リンクファイルをアップロードする」チェックボックスに変更され、コントローラ上のすべてのプロジェクトに適用されるようになりました。以前は、この設定はプロジェクトごとに行う必要がありました。
- 「Trimble Accessからクラウドにアップロードされたリンクファイル」は、別のユーザーがジョブをコントローラにダウンロードしているときに、ジョブとともに自動的にダウンロードされないように設定されました。ただし、ファイルはクラウドで使用可能になり、レイヤーマネージャの追加ボタンを使用して他のコントローラにダウンロードすることができます。

注意 - Trimbleでは、以前のバージョンからバージョン2024.00にアップグレードするユーザーは、クラウド設定(特に関連ファイルのアップロードとTrimBIMとしてダウンロード設定)を確認してください。バージョン2024.00にアップグレードすると、これらの設定は、個々のプロジェクトに対して以前にどのように構成されていたかに関係なく、すべてのプロジェクトで既定でオフに設定されます。

ファイルブラウザに現在のプロジェクトフォルダをピン留め

Trimble Accessファイルブラウザを使用してファイルまたはフォルダを選択する際、現在のプロジェクトフォルダがこのコントローラにピン留めされる場所の一つになりました。

新しい直角にスナップツール

マップのスナップツールバーに直角にスナップツールが追加されました。直角にスナップを使用して、ラインに垂直に投影された選択したポイントの交点に仮想ポイントを作成します。

必要に応じて、ラインを延長して垂直な交点を決定することができます。

コード選択で特徴タイプが表示されるようになりました

コードの測定画面の各コードボタンの左上隅にアイコンが表示され、コードがポイント、ライン、またはポリゴン特徴に対応しているかどうかを示すようになりました。コードリストからコードを選択すると、同じアイコンがコードの横に表示されます。

以前はコードの測定画面のコードボタンの左上隅にあったテンプレートアイコンが、ボタンの上部中央に表示されるようになりました。

マルチコード化されたポイントの属性の確認

ポイントのマルチコード化を行う際、属性フォームのヘッダーにstring番号が表示されるようになりました。これにより、一つのポイント上の二つの同じ特徴(たとえば、フェンス1とフェンス2)の違いを識別することができます。

ラインの端を過ぎて杭打ちしたときのフィードバック

ライン(円弧やポリラインを含む)を杭打ちするときに、ラインの開始ポイントの前または終了ポイントの後に配置すると、測点値が赤い文字で表示されるようになりました。

エクスポートスタイルシートの更新

Trimble Accessとともにインストールされる次のエクスポートスタイルシートを更新しました:

- CSV with attributes.xml
- CSV Global Lat-Long points.xml
- Check shot report.xml

三つのレポートすべてに、レポートの開始日(オプション)とレポートの終了日(オプション)が含まれるようになりました。日付フィールドの横にある ▶ をタップすると、今日の日付やその他の日付を簡単に設定できる日付ピッカーツールにアクセスできます。

CSV with attributes.xs ファイルに、属性をエクスポートするオプションが含まれるようになりました(はいまたはいいえを選択)。エクスポートされた属性には、Trimble Accessのコードで収集された属性が含まれますが、関連ファイルのプロパティまたは属性を持つポイントから保存された属性は含まれません。

ウェブマップの機能強化(WMS、WMTS、WFS)

Trimble Accessバージョン2024.00には、以下のウェブマップの拡張機能が含まれています:

- Trimble Accessで使用するWFSのインスタンスを作成する際に、データをファイルにダウンロードする前にWFSから地理参照されたベクトルレイヤーを選択して含め、マップツールバーを使用して、必要な範囲にマップをズームおよびパンできるようになりました。
- WMSを使用する場合、Trimble Accessは表示する画像の形式を検出するようになりました。
- WMSまたはWMTSの座標系としてウェブメルカトルを選択し、WMSまたはWMTSサーバがWGS 1984ではなくシヨブと同じ座標系を参照するウェブメルカトル座標を使用していることがわかっている場合、**シヨブの座標系を使用**チェックボックスをオンにして、ウェブメルカトル座標系がWGS 1984ではない座標系に基づいている場合に、画像データに生じる可能性のある最大1~2メートルのずれを補正することができるようになりました。

詳細については、[Trimble Accessヘルプ](#)のウェブマップのトピックを参照してください。

IMUチルト補正がRTK・補完測量中に利用可能

Trimble AccessがIMUチルト補正に対応しているGNSS受信機に接続されている場合、RTK・補完測量のRTK測量部分で、IMUチルト補正を使用してポイントの測量を行うことができるようになりました。IMUは、RTK・補完測量の後処理された補完測量部分で自動的に無効になり、測量がRTKに戻ると自動的に再度有効になります。

IMUのチルト補正は、RTK・補完測量中に、受信機ではなくコントローラにロギングを行う場合にのみ利用することができます。

負の水平チルトオフセット値

IMUチルト補正が有効で、IMUが適切に位置合わせされたGNSS受信機を使用して**水平チルトオフセット**を測定する場合、**オフセット**フィールドに負の値を入力できるようになりました。

通常、ポールは手前に傾いていますが、この場合は正の値を入力します。ポールを自分から遠ざけるように傾ける必要がある場合は、負の値を入力します。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の**水平チルトオフセットポイントを測定するには**のトピックを参照してください。

新しいRTX(SV)測量スタイル

Trimble Access 2024.00のインストールに、新しい**RTX(SV)**測量スタイルと、起動時に作成されるその他の既定の測量スタイルが含まれるようになりました。

2024年4月1日以降、新しく購入されたTrimble R12i、R780、R580、R750 GNSS受信機には、購入から最初の12か月間有効ですぐに使用できるTrimble RTXサブスクリプションが含まれます。サブスクリプションは1年毎に更新できるオプションがあり、継続してアクセスすることも可能です。

Trimble Accessで**RTX(SV)**測量スタイルを選択すると、測量を始めることができます。必要に応じて、測量スタイルを編集し、捕捉する衛星群を変更することができます。

注意 – Trimble Accessの旧バージョンからアップグレードする場合、新しいRTX(SV) 測量スタイルは自動的に作成されません。のRTX受信契約を利用するには、新しいRTX(SV) 測量スタイルを手動で作成します。

IBSSストリームがIBSSマウントポイントに名称変更されました

ユーザの皆さまからのフィードバックの結果、IBSS補正ソースの設定や管理を指す用語を「ストリーム」から「マウントポイント」へと変更しました。

Trimble IonoGuard(電離層擾乱軽減)のサポート

Trimble Accessの受信機設定画面に、接続された受信機でIonoguardの状態(有効になっている、無効になっている、またはサポートされていない)が表示されるようになりました。ファームウェア5.61/6.21以降、Trimble Survey GNSSファームウェアには、電離層擾乱を軽減するためのTrimble IonoGuard™技術が含まれます。

注意 – 太陽フレア/電離層干渉の影響は、デバイスと地理的な位置によって異なります。

RTKインターネット測量の終了時にインターネットを切断するように促すプロンプト

接続された受信機の内蔵モデムを使用するRTKインターネットデータリンクを使用してRTK測量を終了すると、受信機の電源を切るかどうかを尋ねるメッセージを表示する前に、Trimble Accessで「インターネット接続を切断しますか?」という追加のメッセージが表示されるようになりました。

- はいをタップしてモデムへの接続を終了すると、補正情報ストリームも終了します。
- 補正情報ストリームを終了し、受信機はオンラインの状態を維持して次の測量に備える場合は、いいえをタップします。

はいといいえのどちらを選択しても、測量の終了時に補正情報ストリームが終了するようになりました。これにより、セルラー通信やVRS時間の意図せぬ使用を回避することができます。

受信機SIMカードでのコンテキストID選択

RTKインターネットデータリンクを設定するときに、複数のコンテキストIDを持つ受信機でSIMカードを使用している場合、受信機のインターネット-モデム設定画面のCIDフィールドを使用してコンテキストIDを選択できるようになりました。受信機のSIMカードから定義されたコンテキストIDを取得するには、▶ をタップしてモデムから読み込むを選択し、使用するCIDを選択します。

動画使用時の線形測点設定

動画に対応している機器に接続していて、線形の杭打ち中に動画画面を表示しているときにリストから測点を選択すると測点設定フィールドを使用できるようになりました。


測点設定フィールドを使用してラインの測点間隔と円弧とすりつけ(トランジション)の測点間隔を定義し、使用可能な測点タイプを選択して測点間隔の増分に使用する方法を選択します。

機器動画画面でのマップファイルの表示

以下のマップファイル形式を、接続した機器からの動画で表示できるようになりました:

- リンクされたポイントファイルとラインファイル(DXF、LandXML、12da、シェープファイル)
- リンクされた道路ファイル(RXL、LandXML、GENIO)
- リンクされた採鉱ファイル(Surpac STR)

Trimble Accessの以前のバージョンでは、リンクされたBIMモデルファイルとトンネルTXLファイル、およびジョブ内のポイントとライン、およびスキャンポイントクラウドのみがサポートされていました。

データオーバーレイを有効にするには、**動画**画面で  をタップして**動画設定**画面を開き、**マップファイルグループの動画にオーバーレイする**スイッチを有効にします。

パフォーマンスの改善

- 杭打ち時に面ファイル(DTMファイルなど)を使用する場合のソフトウェアのパフォーマンス速度を改善しました。
- 12daファイルを読み込む際のソフトウェアのパフォーマンス速度を改善しました。

FXL特徴 ライブラリサポートの強化

Trimble Business Centerソフトウェアの特徴定義マネージャを使用して作成された特徴ライブラリFXLファイルの場合:

- Trimble Accessは、ユーザがリストから一つ以上の項目を選択することができる、拡張リスト属性をサポートするようになりました。
- Trimble Accessでは、**読み取り専用**の属性は表示されますが、編集はできません。
- **オフィスでの使用のみ**の属性は、Trimble Accessでは表示されません。

以前は**オフィスでの使用のみ**として定義されていたFXL属性は、Trimble Accessに表示されなくなりました。Trimble Accessで属性を表示する必要がある場合は、FXLを更新して、属性を**オフィスでの使用のみ**から**読み取り専用**に変更します。

お気に入りとファンクションキー

特殊機能の割り当て画面で、以前は**コードの測定**のグループ化されていた以下の機能が**測量**グループから使用可能になりました:

- **ストリングの検索**
- **ストリング -**
- **ストリング +**
- **マルチコード**

詳しくは、[Trimble Accessヘルプのお気に入り画面と機能](#)のトピックを参照してください。

Androidを実行しているコントローラのBluetoothアクセス許可

Androidを実行しているコントローラでTrimble Accessを使用する場合、必要に応じて適切なBluetoothアクセス許可を設定するように求められるようになりました。

注意 - 以前にAndroidの**設定**画面でBluetoothのアクセス許可を拒否したことがある場合は、Trimble Accessは許可を求めるプロンプトを表示できません。アクセス許可を手動で設定するには、Androidの**設定**に移動し、Trimble Accessアプリのアクセス許可を設定して、**近くのデバイス**へのアクセスを許可します。

質量値の単位

ジョブの質量値に使用する単位を設定できるようになりました。**ジョブのプロパティ**画面からジョブ単位を設定します。使用可能な**質量**単位には、キログラム、トン(メートル法、米国、または帝国単位)、およびポンドが含まれます。

ノルウェー用地籍ポイント許容値チェック

Trimble Accessに、測定または杭打ちされたポイントが二回測定(「二重結合」)されたことを確認し、許容範囲内にあるためのノルウェーの地籍規制を満たしていることを確認する機能が追加されました。

Trimble Accessでノルウェー用地籍ポイント許容値チェックを使用するには、Trimble Accessヘルプポータルの[構成ファイルページ](#)からサンプルのCadastralTolerances - Norway.xmlファイルをダウンロードし、コントローラ上のTrimble Data\System Filesフォルダに追加する必要があります。

ジョブで地籍の許容値チェックを有効にすると、ポイントを杭打ちするか、2つ以上のポイントの平均を計算するときに、Trimble Accessソフトウェアは、ジョブ内の地籍ポイントの許容値を自動的にチェックします。各地籍ポイントのステータスがマップに表示され、ジョブ画面に要約されます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)内の[地籍ポイント許容値](#)のトピックを参照してください。

データ入力フィールドの日本語文字入力

ジョブ名を入力するときなど、Trimble Accessソフトウェアのフィールドに日本語の文字を入力できるようになりました。

日本語の線形ラベル

日本語の測点ラベルは、言語画面で日本語が選択されている場合、既定で使用されます。

これらの設定は、[追加設定画面](#)の[日本語設定](#)グループボックスで変更できます。[日本語設定](#)グループボックスは、言語で日本語が選択されている場合にのみ使用できます。

標高縮尺係数の計算を更新しました

Trimble Accessは、[標高縮尺係数](#)を計算するときに[平均曲率半径](#)を使用するようになりました。これは、Trimble Business Centerで使用される計算と一致しています。

Trimble Accessの以前のバージョンでは、[標高縮尺係数](#)の計算に[横断半径](#)を使用していました。二つの式の違いにより、縮尺係数に数PPM(百万分率)の差が生じていました。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の[地上座標系を設定するには](#)のトピック、または[Trimble Access計算リファレンスガイド](#)の[地上縮尺係数](#)セクションを参照してください。

座標系データベース更新

Trimble Accessと共にインストールされるTrimble座標系データベースには、次の拡張機能が含まれています：

- フィリピンのサポートを最新にアップデートしました。
- タンザニア用のTAREF11とEGM2008によるサポートを最新にアップデートしました。
- グアテマラのサポートを追加しました。
- ウィスコンシン横メルカトル図法のサポートが追加されました。
- ルーマニア用のジオイドモデルをROVT4.08に更新しました。
- オーストラリア用のAusGeoid2020ジオイドモデルの誤った値を修正しました。
- コルシカ島用にジオイドモデルRAC23を追加しました。
- デンマーク用の新しいジオイドモデルDVR90 2023を追加しました。
- 新しいITRF2020プレートモーションモデルを追加しました。
- スロバキアの定義済みゾーンを更新しました。
- ミネソタ州ランバート地区ゾーンとウィスコンシン州の旧地区ゾーンのRTXを修正しました。
- ドイツ/DB(ドイツ鉄道)ゾーンを更新しました。局地座標系の名前がDB_ETRS2DHDNからDB_REFに変更され、世界測地系がWGS 1984からETRS89-DREF91(R16)に更新されました。
- カリフォルニアで使用されるすべての実現のサポート。
- フィンランド用の最新のジオイドモデルFIN2023N00を追加しました。

ハードウェアのサポート

Trimble DA2 GNSS受信機

Trimble Accessバージョン2024.00は、新しい軽量タイプのTrimble DA2 GNSS受信機をサポートしています。Trimble Catalyst™ GNSS測位システムの一部であるDA2受信機は、ワイヤレス方式(Bluetooth)でコントローラに接続。高速で1センチメートルレベルの高精度の測位を可能にします(Catalyst Surveyサブスクリプションが必要です)。

Catalyst Surveyサブスクリプションでアクセス可能なTrimble Corrections Hubは、現在位置とサービスの可用性に応じて、適切なTrimble VRS Now™またはTrimble RTX®補正サービスを動的に選択します。必要な場合には、Trimble Corrections Hubではなくインターネット経由でNTRIPキャストから補正を受信するようにTrimble Accessソフトウェアを設定することができます。

注意 - Trimble AccessでTrimble DA2 GNSS受信機を使用するには、Trimble Access受信契約とCatalyst Surveyサブスクリプションが必要となります。他のCatalystサブスクリプションはTrimble Accessで使用することができません。

Trimble R780 GNSS受信機

Trimble Accessバージョン2024.00は、Trimble R780 GNSSモデル2受信機をサポートしています。Trimble R780 GNSSモデル1受信機のサポートは、Trimble Accessバージョン2022.10で追加されました。

超堅牢タイプのR780 GNSS受信機は、極めて過酷な測量環境にも耐える設計がなされています。R780はIMUチルト補正をサポートしているため、アンテナを水平にすることなく正確な測定を行うことができます。その結果、現場での作業をより速く、より効率的に行うことができます。適応力とスケーラビリティを備えた本機ならば、購入時に必要な機能を選ぶことが可能で、将来的に要件が変化した際には機能を追加できる柔軟性があります。

Trimble TDL450B UHF無線

Trimble Accessバージョン2024.00は、新しいTrimble TDL450B UHF無線に対応しています。IP67定格の堅牢な無線機は、Bluetoothまたはケーブルを使用してTrimble GNSS受信機に接続し、RTK GNSS測量のために受信機が使用するデータを配信、リピート、および受信することができます。

Trimble TDC6ハンドヘルドデータコレクタ

Trimble Accessバージョン2024.00は、新しいTrimble TDC6ハンドヘルドデータコレクタに対応しています。Android™ 12.0 OSを搭載しているスマートフォンで、非常に堅牢です。TDC6ハンドヘルドは、高解像度の6.5インチディスプレイで、5Gネットワークに対応しています。さらに、現場で簡単に交換することができる取り外し可能なバッテリーも装備しています。

Trimble Accessソフトウェアは、TDC6の縦長モードおよび横長モードでの使用に対応しています。

TDC6は、すべての対応GNSS受信機および大部分の光学測量機にBluetoothで接続可能です。またTDC6は、ケーブルを使用して、すべての対応Trimble光学測量機に接続することができます。

注意 - Trimble AccessがTDC6ハンドヘルドで実行されているときに、ロボティクス測量を実行するには、TDC6をTDL2.4 Radio BridgeまたはEDB10 Data Bridgeに接続する必要があります。

Trimble T10x(2024)タブレット

Trimble Accessバージョン2024.00は、新型Trimble T10x (2024)タブレットをサポートしています。このタブレットは、より薄く軽量で、あらゆる過酷な測量作業に耐える堅牢性と耐久性を備えています。優れた処理能力を備えたT10xは、スキャンングワークフローに比類ない効率を実現します。

T-360 LEDおよびT-360SL LED ターゲット

Trimble Accessバージョン2024.00は、T-360 LEDおよびT-360SL LEDターゲットに対応しています。T-360 LEDおよびT-360SL LEDターゲットは、日本でのみ入手可能な、アクティブ追尾ターゲットとしての使用のために設計された反射ターゲットです。

解決された問題

- **自動同期進行中:** 時折、ソフトウェアが「自動同期進行中 - お待ちください」のメッセージを表示し、プロジェクトの変更などの他の動作を妨げる問題を修正しました。
- **同期スケジューラアップロード警告** - ファイルに変更が加えられたときに自動アップロードオプションが有効になっていたが、ファイルがアップロードされる前にオプションが無効にされた場合、アップロードが必要なファイルに変更があることを通知する警告がソフトウェアに表示され続ける問題を修正しました。
- **ジョブ変更のアップロード:** 実行されたアクションがジョブを開くことのみであった場合、クラウドにアップロードする必要がある変更がジョブにあることがソフトウェアに表示されることが減りました。
- **許可されていないプロジェクト名:** Trimble Accessで末尾にピリオド含むプロジェクト名が許可される問題を修正しました。末尾にピリオドがあると、プロジェクトフォルダを読み込むことができませんでした。プロジェクト名の末尾のピリオドは許可されなくなりました。
- **ジオイドファイルの選択:** ジオイドモデルを使用する座標系を選択した後に、ソフトウェアでジオイドファイルを使用スイッチが有効にならないことがある問題を修正しました。
- **日本のジオイドのダウンロード:** 日本のState Plane 2011ゾーンのの一つを選択した状態で、コントローラにGSI Geoid 2011 v2.1がない場合、Trimble Accessが誤ってgsigeo11v2.1.ggfではなくgs1geo11.ggf(GSI Geoid 2011)をダウンロードする問題を修正しました。
- **ファイルブラウザ:** 更新日時でファイルを並び替えるときの、Trimble Accessファイルブラウザの処理が遅い問題を修正しました。
- **ネットワークドライブからのジョブのインポート:** ネットワークドライブからジョブファイルをインポートしようとすると失敗する問題を修正しました。
- **PDFへのジョブのエクスポート:** Androidを実行しているコントローラでTrimble Accessを使用する際、SDカードやUSBドライブを含む、コントローラ上のすべての保存先フォルダにPDFレポートをエクスポートできるようになりました。以前は、エクスポート中に**作成されたファイルの表示**オプションを選択するとエラーが発生することがありました。
- **LASポイントクラウドのエクスポート:** ソフトウェアがファイルを読み込めない問題を引き起こす、Trimble Accessがファイルヘッダに、ファイルに誤った数の記録が含まれる旨を指定する問題を修正しました。
- **レイヤーマネージャ:** レイヤーマネージャに関する次の問題を修正しました:
 - プロジェクト内のサブフォルダに保存されているジョブと関連ファイルが、レイヤーマネージャに表示されていませんでした。
 - 現在のプロジェクトフォルダの外部からリンクされたCSVファイルまたはTXTファイルをポイントファイルタブに表示しないように設定した場合、ジョブを変更するかTrimble Accessを再起動するまで、そのファイルはレイヤーマネージャに残ります。これは、マップファイルタブの動作と一致しています。
- **マップの背景が表示されない:** 別のジョブまたはテンプレートから作成されたジョブを表示する際に、マップ背景ファイルが新規ジョブで自動的に表示されず、レイヤーマネージャで再度有効にする必要があった問題を修正しました。この問題は、画像やウェブマップサービスを含むすべてのマップの背景に影響を与えていました。
- **WMTSサービスにマップデータが表示されない:** 座標系を使用するWMTSサービスで、座標の順序が想定される北距-東距ではなく、東距-北距で表示される問題を修正しました。Trimble Accessは、WMTSの座標の順序を判断するのに、EPSG定義を使用するようになりました。

- **WFSサービスにマップデータが表示されない:** WFS 1.1を使用するWFSサービスを使用すると、Trimble Accessで接続が正しく設定されていると報告されているのにデータが表示されない問題を修正しました。WFS 1.0とWFS 2.0は、Trimble Accessで既にサポートされています。
- **Androidコントローラ上のドットシンボル:** Androidを実行しているコントローラを使用すると、マップ設定画面のシンボルフィールドでドットシンボルを選択すると、ドットシンボルがマップに表示されない問題を修正しました。
- **ラインをポリラインとして結合する:** Trimble Accessの2023.01バージョンで発生した問題を修正しました。関連ファイルから2本のラインを結合して新しいポリラインを作成しようとする、「無効なポリライン定義」と誤って警告していました。
- **IFCポイントのプロパティ: ポイントを作成**の長押しオプションでIFCファイルから**複数**のIFCポイントを作成するときに、最初のポイントのプロパティのみが保存され、他のポイントのプロパティが欠落する問題が修正されました。
- **特徴コード付き線画:** 特徴コード付き線画で発生していた以下の問題を修正しました:
 - 一つ目のポイントが、別のポイントと同じ座標にあった場合に、線画が2つのポイント間に描画されない問題。
 - 結合なし制御コードを使用した後、線画が正しく描画されない問題。
 - 特徴コード化されたポリゴンが円弧で終了すると、円弧の弦を横切る余分なラインが描画されていました。
- **マップ/動画のオフセットポイント:** オフセットポイントが追加されたときに、マップ画面と動画画面に重ね表示されたグラフィックスが更新されるようになりました。以前は、重ね表示されたグラフィックスは、マップ画面や動画画面が更新されるまで(画面移動やズームなどによって)オフセットポイントを含むように更新されませんでした。
- **オフセットポイントの設計標高:** 杭打ち中にポイントのオフセットを設定するときに、設計標高を編集できなくなりました。以前のバージョンでは、設計標高を編集することはできましたが、新しい値は使用されていませんでした。
- **杭打ち済みポイントが通常ポイントとして保存される:** ポイントの測定前に観測方法が杭打ち済みポイントフォームで変更されたときに、杭打ち済みポイントが時折「通常」区分で保存されていた問題を修正しました。
- **ポイント保存時のバイブレーション:** 設定 / 言語画面で構成されているにもかかわらず、Trimble Accessがポイントを自動保存した際に、またはポイント保存の準備が完了した際に、コントローラが振動しないことがあった問題を修正しました。
- **器械点設置:** 自由縮尺の器械点設置を使用する際、後視が再測定されたときに縮尺係数が正しく再計算されるようになりました。
- **前回の器械点設置をコピー:** 前回はコピーを使用して、別のジョブで前回完了した器械点設置を土使用する際に、器械点設置で使用されるすべてのターゲットがジョブにコピーされるようになりました。
- **後視チェック後の既定コード:** CTRL + Kのショートカットを使用して後視を確認した後、**地形の測定** フォームが最後に使用したコードに正しく設定されない問題を修正しました。
- **SX12接続:** Trimble AccessにおけるSX12のケーブル接続からWi-Fi接続への移行を改善しました。
- **SX12のパスワード:** パスワードサポートが有効になっているSX12に接続する際の、ソフトウェアの動作を改善しました。
- **SX10/12画像がリンクされない:** Trimble Accessソフトウェアで**画像をジオタグ**オプションが有効になっているときに、Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーション機器でキャプチャされたスナップショットが正しくジョブ内のポイントにリンクされない問題を修正しました。
- **F2自動旋回:** 正面および反面観測の測定時に、**サーボ / ロボティック**設定の**自動**および**自動旋回**が無効になっている場合に、ソフトウェアが**自動旋回**設定を無視して常に自動的に計算された反面位置を向く問題を修正しました。
- **IMUによる連続地形:** 測量スタイルで**QC1 & QC3**オプションが選択されている場合、IMU傾斜補正を使用して連続地形を測定すると、QC3データがポイントとともに保存されるようになりました。

- **正しくないSVレポーティング:** 一部のコントローラで、内部GNSSを使用する際に、捕捉している衛星(「SV」)の数が異常に高いことがありました。外部GNSS受信機に接続している場合は、捕捉されている衛星の数は正しく表示されていました。
- **受信機Wi-Fi:** 以下の場合の、**接続画面のWi-Fi**タブの動作を改善しました。
 - ソフトウェアを初めて開いたときに、誤った通信エラーが表示されることがありました。
 - 削除されたネットワークは表示されなくなりました。
- **基準局測定の開始:** Spectra Geospatial受信機で基準局測定を開始した際に、受信機にエラーが表示され、繰り返し警告音が鳴る問題を修正しました。この問題は、基準局測定スタイルの**基準局データリンク**フォームで**バンド幅制限**が既に設定されている場合に、測定スタイルのアンテナタイプをバンド幅制限に対応していないSpectra Geospatial受信機に変更したときに、測定スタイルに互換性がない結果として発生していました。
- **ジオタグ付き写真:** 負の標高が設定されているジオタグ付き写真に、正しい標高が表示されるようになりました。
- **コードの測定:** コードの測定を使用する際の次の問題を修正しました:
 - 数字で終わるコードを使用すると、**ストリングの接尾辞**を追加した後に線図を描画するときに、ソフトウェアが基準コードを認識しませんでした。
 - **地形の測定**または**ポイントの測定**画面から**コードの測定**画面に戻った際に、**マルチコード**フィールドに含まれるすべての内容が強調表示されるようになりました。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 以前アクセス許可を付与したフォルダが削除されたリムーバブルドライブを挿入した際に、Android 12以降を実行しているコントローラでTrimble Accessを実行しようとしたとき。
 - サインインしているユーザにアクセス権のないフォルダにプロジェクトが保存されている場合に、プロジェクトをクラウドからダウンロードするとき。
 - CSVファイルの名前を入力せずに、**CSVファイルにポイントを追加する**オプションを選択したあと。
 - 誤って**特徴ライブラリ**画面を二つ開いた後、**特徴ライブラリ**画面を閉じたとき。
 - DTMファイルから三角形を削除するとき。
 - 対応ファイル形式のファイルをインポートするときに、それが誤ってバイナリファイルとしてエンコードされているとき。正しくエンコードされたファイルは、UTF-8またはMBCSとしてエンコードされます。
 - ヘッダーのジオメトリ情報が間違っている場合に、シェープファイルを読み込むとき。
 - リンクされたジョブからのGNSSポイントを使用してポリラインをキー入力するとき。
 - IRNSS/NavIC衛星からの観測を含むポイントの情報を**ポイントマネージャ**で表示しようとしたとき。
 - **ポイントマネージャ**で除去されたポイントの名前を変更するとき。
 - 測定スタイル**基準局データリンク**画面の**無線**フィールドが**ADL Vantage**に設定されている場合に、基準局測定を開始するとき。
 - Androidを実行しているコントローラのオペレーティングシステム設定でディスプレイのサイズを変更したとき。
 - 縦画面モードになっているコントローラの**ジョブの確認**画面でTSFスキャンファイルを表示するとき。
 - 最初にジョブを開かずにスキャンポイントをエクスポートしようとした場合。スキャンポイントをエクスポートする前に、ジョブを開く必要があります。
 - フォーム間でテキストをコピー&ペーストし、いずれかのフォームが予期せず終了した場合(機器の接続が切断された場合など)。
 - ソフトウェアの終了時。また、終了プロセスが開始されると、ユーザによる操作ができなくなりました。

道路

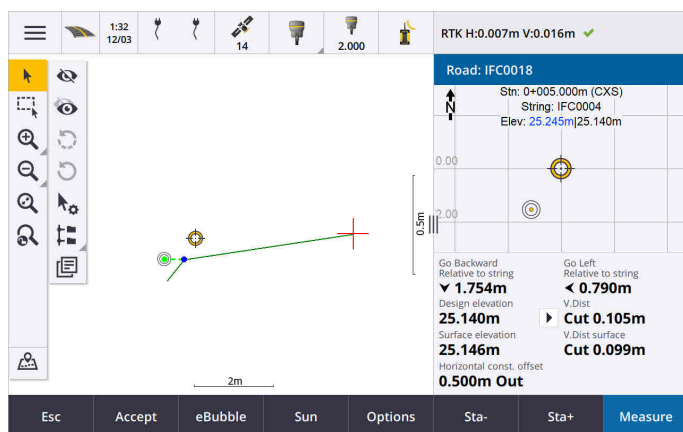
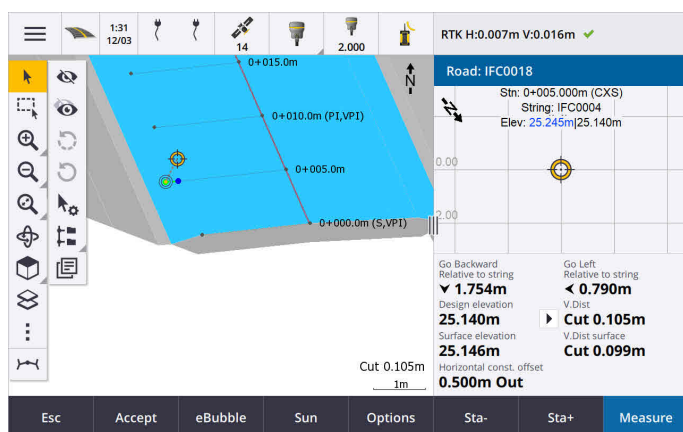
新機能

道路の杭打ちでBIMへの切土/盛土に対応

IFCモデルの面から計算された追加の切土/盛土を使用して、道路やストリングを杭打ちできるようになりました。

杭打ち選択画面で、**面への切土/盛土**スイッチを有効にします。**面**フィールドで、現在のプロジェクトフォルダから面ファイルを選択する代わりに、BIMファイルから面を選択できるようになりました。**面**フィールドには、マップで選択した面の数が表示されます。

追加の面デルタが使用可能になりました。杭打ち中に表示されるデルタを設定するには、**オプション**をタップしてデルタを編集します。



詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)内のプライマリストリングを基準とした位置の杭打ちのトピックを参照してください。

機能強化

垂直距離杭打ち済みデルタ

二本のストリング間で杭打ちを行う際、Trimble Accessは、二本のストリングの間の、面までの**垂直距離**デルタを表示することができるようになりました。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の二本つのストリング間の面の杭打ちのトピックを参照してください。

12da ファイルの機能強化

12daファイル内の項目のうち、特徴タイプが関連付けられている項目の属性情報をTrimble Access 道路アプリで確認できるようになりました。属性を確認するには、マップで12daファイルから項目を選択し、**確認**をタップします。項目を複数選択した場合は、項目をリストから選択し、**詳細**をタップします。

測量計算に12daファイルの項目を使用すると、杭打ち中やジョブ内のポイント作成時に、Trimble Accessでは、その項目の属性がファイルからコピーされ、Trimble Accessジョブ内のポイント、ポリライン、円弧とともに保存されるようになりました。

ラベル以外のテキストが、12daファイルがレイヤーマネージャで有効になった際にマップに表示されるようになりました。以前は、ファイル内の項目の名前、コード、標高など、ラベルとして分類されたテキストのみが表示されていました。今回の変更により、ファイル情報や項目の情報など、ファイルに直接入力されたテキストが表示されます。

解決された問題

- **Road stakeout cut/fill:** We have fixed an issue when staking a road, where the cut/fill stored in the job did not always equate to the design elevation minus the as-staked elevation. This was caused by an RTK position update happening in the instant between the time the cut/fill was calculated and the time the values were displayed on the **Confirm staked deltas** screen. The prior position's elevation was used to calculate the cut/fill, but the next position's elevation was displayed on the **Confirm staked deltas** screen and stored to the job. This resulted in the stored elevation being slightly different to what was used to calculate the cut/fill. This issue was more likely to occur if **Auto store point** was enabled. Typically during well converged RTK operation, the error was at the sub-3mm (1/100th ft) level.
- **ストリングと面:** ストリングと面ワークフローを使用する際に発生していた以下の問題を修正しました:
 - ストリング上の測点法を使用した杭打ち時に、プライナリストリングから測点を選択できるようになりました。
 - GNSS測量のメニューから作業を行う際、**アンテナ高とプライマリ測点距離ストリング**の両方を設定する必要があった場合に、**承諾**をタップすると、正しい杭打ち画面を表示するようになりました。
 - プライマリストリングがRXLファイルから選択された場合、ソフトウェアがファイルで定義されている開始測点および測点距離決定方法を無視していました。
 - プライマリストリングがRXLファイルから選択された場合、ソフトウェアが線形に対してストリングを構築する方向を決定できなかったため、**二つのストリングまで杭打ちを行うと、一部のデルタとストリング名が「?」と表示されていた。**
- **12daファイル:** 12daファイルに180度の円弧を読み込む際の問題を修正しました。
- **つなぎ目:** つなぎ目の位置に関する次の問題が修正されました。
 - **つなぎ目までの水平距離** フィールドに表示される値は、平面図と断面図を切り替えると変化していました。断面に示されている値が正しく、保存された値でした。
 - 以前は、つなぎ目の位置を変更した場合、選択した測点の新しい側面勾配と断面図は平面図では更新されませんでした。
 - 杭打ち中に側面勾配のつなぎ目の位置を変更すると、新しい位置を杭打ちした後に、ソフトウェアは元の位置で側面勾配に戻るようになりました。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 横断表示で杭打ち方法を変更するとき。

トンネル

機能強化

線形杭打ちデルタに沿った距離

トンネル杭打ち時に、Trimble Accessで線形に沿った勾配距離を示す**線形に沿った距離**杭打ちデルタが表示されるようになりました。線形の勾配により、この値は、2D測点距離またはチェイネージを使用する**測点**デルタよりも大きくなる場合があります。

トンネル横断面の測定ポイントの視認性向上

トンネル横断表示内の測定ポイントのサイズを大きくし、見やすさを改善しました。

解決された問題

- **パイプ傘**: パイプの終了ポイントがトンネルの終了ポイントに近いか、トンネルの終了ポイントを超えて延びている場合に、パイプ傘の計算が正しくない問題を修正しました。
- **測点ラベル**: マップ上における測点ラベルの表示を改善しました。ラベルは重ならなくなり、旋回中に反転しなくなりました。

パイプライン

解決された問題

- **削除されたジョブに関する誤ったメッセージ**: Trimble Sync Managerの統合プロセスの後に、Trimble Accessが誤って「パイプラインファイルがTrimble Connectから削除された」と報告していた問題を修正しました。

サポートされている機器

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2024.00は、下記のソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最適です。

注意 - 最高のパフォーマンスを維持するため、ハードウェアには常に使用可能な最新のファームウェアをインストールしてください。

最近のソフトウェアおよびファームウェアバージョンに関する詳しい情報は、[Trimble地球空間ソフトウェアおよびファームウェアの最新リリース文書](#)をご参照ください。

サポートされているコントローラ

Windows端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のWindows®デバイスで実行可能です:

- TrimbleTSC7コントローラ
- Trimble T7、T10、T10x、またはT100タブレット
- 対応サードパーティー製タブレット

サポートされているサードパーティー製タブレットの詳細については、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート公示](#)ページからダウンロードできるサポート公示[Trimble Access on 64-bit Windows 10 & 11](#)を参照してください。

Android端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- TrimbleTSC5コントローラ
- Trimble TDC6ハンドヘルドデータコレクタ
- Trimble TDC600ハンドヘルドデータコレクタ
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機(Trimble Access受信契約の場合のみ)
- TrimbleTCU5コントローラ

ヒント - Trimble Accessは、TDC6およびTDC600ハンドヘルドの、縦長モードと横長モードの両方で使用することができますように設計されています。縦長画面およびAndroid OSを使用できるようにするためにユーザーインターフェースが多少異なっています。詳細については、[Trimble Accessヘルプ](#)のTrimble Accessワークスペースのトピックを参照してください。

注意 - Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機は、Trimble Accessサブスクリプションでのみ使用することができます - Trimble Access永久ライセンスでは使用することはできません。TDC650はGNSSのみの測量のために設計されており、トータルステーションへの接続はサポートされていません。トータルステーション測量を必要とするTrimble Accessアプリは、TDC650では使用することはできません。これらには、Trimble Access トンネル、採掘鉞、モニターがあります。Trimble AccessでTDC650を使用する方法については、下記の[サポート対象のGNSS受信機](#)セクションを参照してください。

サポート対象の一般機器

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能な従来型機器は以下の通りです:

- Trimbleスキャニングトータルステーション: SX12、SX10
- TrimbleVX™ スペーシャルステーション
- TrimbleS Seriesトータルステーション: S9、S7、S5 とS8、S6、S3
- Trimble機械式トータルステーション: C5、C3、M3、R4、M1
- TrimbleSPS Seriesトータルステーション
- Spectra® Geospatialトータルステーション: FOCUS® 50/35/30
- サポート対象のサードパーティー製トータルステーション

Trimble Accessソフトウェア内で使用可能な機能は、接続された機器の型式およびファームウェアバージョンによって異なります。Trimbleでは、本バージョンのTrimble Accessを使用されるに当たって、入手可能な最新のファームウェアに機器をアップデートすることをお勧めします。

注意 - TSC5コントローラー、TDC600モデル2ハンドヘルドとTDC6ハンドヘルドからTrimble SX10またはSX12スキニングトータルステーションに接続することができます。ただし、TCU5コントローラーとTDC600モデル1ハンドヘルドを使用する場合、Trimble SX10またはSX12スキニングトータルステーションへの接続はサポートされません。

サポート対象のGNSS受信機

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能なGNSS受信機は、以下の通りです:

- TrimbleRシリーズ統合GNSS測量システム:
 - 慣性測定ユニット(IMU)内蔵: R780、R12i
 - 磁力計チルトセンサ内蔵: R12、R10
 - その他のRシリーズ統合GNSS受信機: R580、R8s、R8、R6、R4、R2
- Trimble Catalyst™ GNSS測位サービス受信機: DA2
- TrimbleモジュラーGNSS測量システム: R750、R9s、NetR9 Geospatial、R7、R5
- TrimbleSPSシリーズGNSSスマートアンテナ: SPS986、SPS985、SPS985L、SPS785、SPS585
- TrimbleSPSシリーズGNSSモジュラー受信機: SPS85x
- TrimbleAlloy GNSS基準局受信機
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機
- 慣性計測ユニット(IMU)内蔵型Spectra Geospatial GNSS受信機: SP100
- Spectra Geospatial内蔵GNSS受信機: SP85、SP80、SP60
- Spectra GeospatialモジュラーGNSS受信機: SP90m
- FAZA2 GNSS受信機
- S-Max GEO 受信機

注意 -

- Trimble AccessでTrimbleDA2GNSS受信機を使用するには、有効なCatalystサブスクリプション契約があり、かつサインインしている必要があります。ユーザまたはコントローラに割り当てられているライセンスの種類は、 をタップして情報を選択すると表示されます。詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)のTrimble Accessのインストールのトピックを参照してください。
- 上記のサポートされているコントローラセクションで説明されているように、Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機は、Trimble Access利用契約でのみ使用することができます(永久ライセンスでは使用できません)。Trimble Accessで使用する場合、TDC650は:
 - Trimble® Zephyr™ 3アンテナなどの外部アンテナには接続できますが、他のGNSS観測には接続できません。
 - エコーサウンダーやレーザ測距儀などの他の測量機器に接続することができます。
 - GNSS RTK 解としてのみ使用することができ、以下の精度を提供します:
 - センチメートル精度 - 水平: 10mm、鉛直: 15mm
 - デシメートル精度 - 水平: 70mm、鉛直: 20mm
 - サブメートルの精度 - 水平: 300mm、鉛直: 300mm
 - RTXでは使用できず、後処理にも使用できません。
 - カメラ内蔵の電子気泡管はサポートされていません。
- Spectra Geospatial SP90m、SP85、SP80、またはSP60受信機を使用する場合、Trimble Accessソフトウェアのすべての機能が使用できるわけではありません。詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート公示](#)ページからダウンロードできるサポート公示[Spectra Geospatial receiver support in Trimble Access](#)を参照してください。

インストール情報

ライセンス要件

Trimble Access 2024.00をインストールするには、一般観測 / 基本観測アプリのほか、使用したい各Trimble Accessアプリのライセンスが必要です。

- **永久ライセンス**

永久ライセンスは、コントローラにライセンスされます。コントローラには、**15月 2024**まで有効なTrimble Access Software Maintenance Agreementが必要です。

- **受信契約**

受信契約ライセンスは、個々のユーザーに割り当てられます。受信契約ライセンスで使用する際、サポート対象の任意のコントローラにTrimble Access 2024.00をインストールすることができます。

詳しくは、Trimble Access ヘルプポータルに必要なソフトウェアライセンスを参照してください。

アカウントをお持ちでない場合 ソフトウェアをお試しいただけます

必要なライセンスをお持ちでない場合は、一定期間、ソフトウェアを試すことができます。



オプションは以下の通りです:

- サインインして利用契約を使用できない場合、または永久ライセンスを購入したがコントローラにまだ割り当てられていない場合に備えて、Trimble Access用の**48時間**ライセンスを作成します。
- コントローラに有効な永久ライセンスがない場合、Trimble Accessの**30日間のデモライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応WindowsおよびAndroidコントローラで利用できます。
- コントローラに有効な永久ライセンスがあるものの、試したい特定アプリのライセンスがない場合は、特定Trimble Accessアプリの**30日間の試用ライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応Windowsコントローラでのみ使用できます。

詳しくは、Trimble Access ヘルプポータル**の一時ライセンスのインストール**を参照してください。

Trimble Accessのインストールまたはアップグレード

ソフトウェアをコントローラにインストールするには、コントローラのオペレーティングシステムに応じて正しいTrimble Installation Managerを使用します:

- Trimble Installation Manager Windows用 
- Trimble Installation Manager Android用 

詳しくは、Trimble Access ヘルプポータル**のTrimble Accessのインストール**を参照してください。

注意 - 旧バージョンのTrimble Accessを使用して作成されたジョブ(.job)ファイルは、Trimble Accessの最新バージョンで開いた際に自動的にアップグレードされます。アップグレードされたジョブは、旧バージョンで開くことはできなくなります。詳しくは、Trimble Access ヘルプの**最新バージョンのTrimble Access**で**既存ジョブを使用する**を参照してください。

学習 リソース

Trimble Accessソフトウェアの機能とソフトウェアを最大限に活用する方法の詳細については、以下のリソースを参照してください。

Trimble Accessヘルプポータル

Trimble Accessヘルプポータルは、help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/からご覧いただくことが可能で、Trimble Accessヘルプのすべての内容を14言語で提供しています。また、Trimble Access YouTubeチャンネルの動画へのリンクも掲載されています。

Trimble Accessヘルプポータル**のダウンロード領域**には、以下を含む有用なリソースへのリンクを掲載しています:

- サポート公示
- ソフトウェアとユーティリティ
- テンプレートファイル

- スタイルシート
- サンプルデータ
- リリース資料(プレゼンテーションや動画を含む)
- PDFガイド

Trimble Accessヘルプポータルは、インターネットに接続されている任意のコンピュータから、Trimble Accessソフトウェアをインストールすることなく表示できます。また、携帯電話からのアクセスや、オンボードヘルプをインストールしないことを選択した場合でも、Trimble Accessを実行しているコントローラからご覧いただくことが可能です。

Trimble Accessヘルプ

Trimble Accessヘルプは、Trimble Installation Managerで言語とヘルプファイルチェックボックスを選択すると、ソフトウェアとともにインストールされます。インストールされているヘルプを表示するには、Trimble Accessソフトウェアで☰をタップし、ヘルプを選択します。Trimble Accessヘルプが開き、Trimble Accessソフトウェアで現在表示されている画面のヘルプトピックに直接移動します。

Trimble AccessYoutubeチャンネル

Trimble AccessYouTubeチャンネルには、便利なソフトウェア機能を紹介する多数の動画があります。最近追加された機能を紹介する動画や、特定の分野を紹介するプレイリストをご覧いただくことができます。

新しい動画は定期的に投稿されるため、Trimble AccessYouTubeチャンネルページの登録をクリックして、新しい動画が公開された時に通知を受け取るようにしてください。

Trimble Accessアプリ

Trimble Accessソフトウェアスイートは、測量士や地理空間の専門家向けに、現場作業を容易にする一連の専門フィールドアプリケーションです。使いやすいインターフェース、最適化されたワークフロー、リアルタイムデータ同期により、Trimble Accessソフトウェアは、日々の作業の成果をさらに高めることを可能にします。実際の作業に最適なアプリケーションを選択することで、競争力の向上を図りましょう。

Windows端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble Accessアプリは、対応Windowsデバイスで本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています。

- 道路
- トンネル
- 採掘鉞
- Land Seismic
- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター

- AutoResection
- BathySurvey

注意 - サポートされているTrimble Accessアプリへの変更は、リリース後に変更される可能性があります。最新の情報、またはTrimble Accessの旧バージョンでサポートされているアプリケーションの詳細については、**Trimble Access App availability**の[サポート公示ページ](#)からダウンロードすることができるサポート公示Trimble Accessヘルプポータルを参照してください。

Android端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble アプリは、対応Androidデバイスで本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています:

- 道路
- トンネル
- 採掘鉞
- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター
- AutoResection
- AllNAV Rounds

注意 - サポートされているTrimble Accessアプリへの変更は、リリース後に変更される可能性があります。最新の情報、または以前のバージョンのTrimble Accessでサポートされているアプリケーションの詳細については、**Trimble Access App availability**を参照してください。

法的情報

© 2024, Trimble Inc. All rights reserved. Trimble, the Globe and Triangle logo, ProPoint, Spectra, and Trimble RTX are trademarks of Trimble Inc. registered in the United States and in other countries. Access, IonoGuard, VISION, and VX are trademarks of Trimble Inc. For a complete list of legal notices relating to this product, go to help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/ and click the **Legal information** link at the bottom of the page.